

# 資料 1-3

高齢期部会 開催日：R1.7.31（水）

## 令和元年度 第2回 香南市人生支援計画 高齢期 部会報告書

（部会テーマ「高齢者の生活支援について」に係る「掃除・ごみ出し」に関する  
高齢者の生活状況についての意見交換）

### ◇部会委員 ◎部会長 ○副部会長

|    | 役職 | 氏名     | 所属             | 出欠 |
|----|----|--------|----------------|----|
| 1  | ◎  | 小松 健一  | 香南市社会福祉協議会 会長  | 出  |
| 2  | ○  | 福井 清仁  | 民生児童委員会 代表     | 出  |
| 3  | ◇  | 島崎 義幸  | 高齢者クラブ 代表      | 欠  |
| 4  | ◇  | 大谷 修二  | 第1号被保険者代表      | 欠  |
| 5  | ◇  | 矢野 由美子 | 第2号被保険者代表      | 出  |
| 6  | ◇  | 岡本 八重子 | サービス利用者家族代表    | 出  |
| 7  | ◇  | 福永 康夫  | 夜須町民生児童委員協議会   | 欠  |
| 8  | ◇  | 安岡 喜久一 | 香我美町まちづくり評議会会長 | 欠  |
| 9  | ◇  | 近森 孝章  | シルバー人材センター     | 欠  |
| 10 | ◇  | 濱崎 勲   | 香美人権擁護委員協議会    | 出  |

### ◇事務局 ◎事務局長 ○副事務局長

|    | 役職 | 氏名       | 課名     | 出欠 |
|----|----|----------|--------|----|
| 1  | ◎  | 宮崎 結城    | 高齢者介護課 | 出  |
| 2  | ○  | 西内 淳     | 福祉事務所  | 欠  |
| 3  | ◇  | 中城 由美    | 高齢者介護課 | 出  |
| 4  | ◇  | 坂本 充子    | 福祉事務所  | 欠  |
| 5  | ◇  | 寺内 潤     | 環境対策課  | 欠  |
| 6  | ◇  | 山崎 正博    | 生涯学習課  | 出  |
| 7  | ◇  | 岩佐 和子    | 健康対策課  | 出  |
| 8  | ◇  | 濱田 知佐（代） | 人権課    | 出  |
| 9  | ◇  | 宮崎 遼     | 地域支援課  | 出  |
| 10 | 総括 | 岡本 修     | //     | 出  |
| 11 | // | 久武 正和    | //     | 出  |

### ☆ 高齢期部会の開催内容

◎ 開会

◎ 議事内容

1. 高齢者の移動・外出支援の受け皿づくりについて（経過報告）

2. 部会テーマ「高齢者の生活支援について」  
「掃除・ごみ出し」に関する高齢者の生活状況についての意見交換

◎ 閉会

## 1. 高齢者の移動・外出支援の受け皿づくりについて（経過報告）

【高齢者介護課】⇒高齢者の移動・外出支援の受け皿づくり事業を、香南市社会福祉協議会と共催し、生活支援体制整備事業の中で話を進めていく。

「住民参加の移動・外出サービス研修会」を開催（10月6日）

## 2. 部会テーマ「高齢者の生活支援」についての意見

■「掃除・ごみ出し」に関して、“高齢者ができる限り在宅での生活を続けられるためにはどのようなことが必要であるか”を生活援助サービス利用実績や現場で関わっている人の話を参考に意見交換を行う。

（意見）

- 突発的にサービスを必要とする場合は、社協の介護サービスの自費の部分で対応している。サービス利用時の登録に時間がかかる。手間をかけずにできる方法があるとよい。
- 自宅で介護をしている場合、緊急に他の家族の用事がある時にみてもらえる人がいないことがある。また、県外に家族がいる場合、帰省時に家の片付けを手伝ってほしいこともあり、前もってサービスの情報があるとよい。また、サービス手続きの手助けもあるとよい。
- ごみを出す時間が遅れると収集してもらえないことがある。（ルートによって回収時間が異なる）回収ルートの工夫はできないだろうか。ごみステーションが遠い人は8時までに持って行くのが大変なことがある。

【環境対策課】⇒ごみ出しについての問い合わせはきていた。ステーションでの回収をもとに考えているが、自宅から遠い実態はたくさんある。粗大ごみの回収サービスは始まった。ごみを出しておける（回収してもらえる）こともできればよい。

- 行政でできることと、共助として考える部分もあると思う。プライバシー・個人情報で隣近所の付き合いが難しいところがあり、関りを拒否する考え方で「共助」は難しい。小さい時からの助け合いの教育も必要だと思う。
- 資料4（事例）で、人の手が入っている（サービスを利用している）のにごみの問題が出るのは、どこに問題があるのか。本人が片付け等を希望しないのはどうしてか。困っているようで困っていない人なのか、困っている人であれば何で手が届いていないのかみていくとよい。

### 3. 次回以降の部会で協議が必要な事項

#### ★部会テーマ「高齢者の生活支援」についての協議

##### ■「掃除・ごみ出し」に関して、在宅での生活存続のために必要な事項を協議

###### ●社協等のサービス利用時の登録

⇒手続きの時間短縮。

⇒県外家族のサービス情報や手続きの手助け。

###### ●ごみステーション回収の時間ルール

⇒8時までに出す、ルールの再考。ヘルパーの業務時間の兼ね合い。

⇒公助・共助の検討が必要

###### ●サービスを利用しているのに、ごみ出しの問題が解決しない。

⇒どこに問題があるのか。

令和元年度 第3回 香南市人生支援計画 高齢期 部会報告書

◇部会委員 ◎部会長 ○副部会長

|    | 役職 | 氏名     | 所属             | 出欠 |
|----|----|--------|----------------|----|
| 1  | ◎  | 小松 健一  | 香南市社会福祉協議会 会長  | 出  |
| 2  | ○  | 福井 清仁  | 民生児童委員会 代表     | 出  |
| 3  | ◇  | 島崎 義幸  | 高齢者クラブ 代表      | 出  |
| 4  | ◇  | 大谷 修二  | 第1号被保険者代表      | 出  |
| 5  | ◇  | 矢野 由美子 | 第2号被保険者代表      | 出  |
| 6  | ◇  | 岡本 八重子 | サービス利用者家族代表    | 出  |
| 7  | ◇  | 福永 康夫  | 夜須町民生児童委員協議会   | 出  |
| 8  | ◇  | 安岡 喜久一 | 香我美町まちづくり評議会会長 | 欠  |
| 9  | ◇  | 近森 孝章  | シルバー人材センター     | 出  |
| 10 | ◇  | 濱崎 勲   | 香美人権擁護委員協議会    | 出  |

◇事務局 ◎事務局長 ○副事務局長

|    | 役職 | 氏名    | 課名     | 出欠 |
|----|----|-------|--------|----|
| 1  | ◎  | 宮崎 結城 | 高齢者介護課 | 出  |
| 2  | ○  | 西内 淳  | 福祉事務所  | 欠  |
| 3  | ◇  | 中城 由美 | 高齢者介護課 | 出  |
| 4  | ◇  | 坂本 充子 | 福祉事務所  | 出  |
| 5  | ◇  | 寺内 潤  | 環境対策課  | 出  |
| 6  | ◇  | 山崎 正博 | 生涯学習課  | 出  |
| 7  | ◇  | 岩佐 和子 | 健康対策課  | 出  |
| 8  | ◇  | 田中 彰裕 | 人権課    | 出  |
| 9  | ◇  | 宮崎 遼  | 地域支援課  | 出  |
| 10 | 総括 | 岡本 修  | //     | 出  |
| 11 | // | 久武 正和 | //     | 出  |

☆ 高齢期部会の開催内容

◎ 開会

◎ 議事内容

1. 移動支援に係る新規事業・対象者拡大事業の成果報告

- ① 日常生活用具給付（杖・歩行器）事業・医療機関送迎サービス事業の現状
- ② 住民参加の移動・外出支援サービス研修会アンケート結果

2. 部会テーマ「高齢者の生活支援」について実践者からの報告

「高齢者の生活実態と支援をされていて感じること」

NPO法人訪問生活サポート香南 代表者

シルバー人材センター 会員

3. 意見交換

◎ 閉会

## 1. 移動支援に係る新規事業・対象者拡大事業の成果報告

①高齢者日常生活用具給付事業・医療機関送迎サービス事業の現状（高齢者介護課）

②住民参加の移動・外出支援サービス研修会（社会福祉協議会：生活支援コーディネーター）

### 【委員からの意見】

- ・歩行器・シルバーカーが普及していくと、介護予防にもつながるのでよいと思う。移動支援の研修もしたが、事故の心配などもあり実践は難しい。それよりは歩行器など外出に効果のある支援を充実させる方がいいのではないか。
- ・運転ボランティアは（することに）生きがいを持っていると感じた。かなりのボランティア精神がなければ働いている人では難しい。
- ・運転にはボランティア保険があり事故の対応策となる。保険加入で保障されることもあるのではないか。
- ・介護度を高くしないようにすることにお金（予算）を使っていくべき。ボランティア保険の一部の助成をすればやろうとする人もいるのではないか。福祉有償運送も保険の面で（要件が）緩くなっているということであり、研究して周知していったらどうかと思う。
- ・（医療送迎について）通院している人の様子を見ると、要介護・要支援の人より、ある一定元気な人が多いように思う。運転免許返納者も年間で120人近くなるようであれば、利用対象者を広げることが、移動支援や生活支援につながるのではないだろうか。

【高齢者介護課】⇒ 事業創設当初は要介護3、要介護2、今年度から要介護1と段階的に引き上げてきた。要支援1・2の方はある程度は交通公共機関を使うことができ、身体の状態から付き添いの必要まではあまりないのではないかとと思われる。身体の状態から家族が自家用車で連れていくのは難しいという人が、介護タクシーを使って通院をしている。現在のところ、医療送迎事業の利用者を介護度別にみると重度の利用者の方が多く見られる。

## 2. 部会テーマ「高齢者の生活支援」について

「高齢者の生活実態と支援をされていて感じること」

### ◆NPO法人生活サポート香南の代表者から

#### 説明内容（抜粋）

##### ○気になる人

- ・こどもは県外に出る人が多く、その方の親が地元に残っている。
- ・独居・高齢世帯が多い：喧嘩をして家を出た、火事、何でもないことで入院をしてしまうなど、独居高齢者は様々なリスクがあるため支援したい。

##### ○仕事の現状

- ・ヘルパーの業務にならない隙間の仕事（例：ごみ捨て等）が多いし、時間をとられる。本来は安否確認で状態をみて（10分程度で）、県外の家族に知らせることなどをしたいがその依頼がない。
- ・ヘルパーの成り手がない。

○山間部（他市例）では詐欺の事例が多いのに、対応しきれいていない。（訪問販売、通販でのターゲット、リホーム詐欺等）高齢者に対して誰かが見守りをしてあげないといけない。

○身寄りのない人は、施設の受け入れもしてくれない現状がある。等

## ◆シルバー人材センターの会員から

### 説明内容（抜粋）

軽度生活支援事業対象者は13人。

#### ○一番のニーズはゴミ問題

- ・プラスチックやペットボトル等捨ててくれないが、捨てるほど多くないものが台所にたまっている。ごみステーションで黄色のテープを貼られたくないが、何に捨ててよいのかわからない。新聞は重いので捨てられない。缶・ピンの回収日の把握ができない。捨てるようにまとめてあげても出す日がわからない。
- ・カセットボンベや殺虫剤は穴を開けることができないので捨てられない。
- ・紙おむつをよく使うが、小のごみ袋でも重くなる。
- ・本人は困っている感じではない。置いているだけという思いの人もいる。

#### ○通院について

- ・内科・整形・心療内科等一人が月に3カ所は行っている。病院の中でも移動するのが大変で、待合の椅子から立ち上がるのも大変。「家族には月1回以上は頼めない。」という。

#### ○掃除の支援より話がしたい。

#### ◎ニーズは、「話がしたい」と「ゴミ捨て」

ごみ出しの冊子は高齢者向けの見やすいものを作ってほしい。皆捨て方がわからないので、律義に溜めている。市指定のごみ袋があるが、袋がいっぱいになるまで捨てない人が多い。

### 【意見】

- ・（生活サポート香南について）事業として成り立っているのか。

【生活サポート香南】⇒成り立たない。ごみ出しでは収入にならない。ガソリン代にもならない。

- ・地域ごとに、ゴミ出し支援ができるような人がいないといけない。
- ・公的支援はできないのか

【部会事務局】⇒軽度生活支援事業はあるが、シルバーの会員が少なく人手がない。

- ・このような現状をもっと多くの人に知ってもらう必要がある。

### 3. その他意見交換

#### （1）人生支援計画の評価指標について

「パークゴルフ・ペタンク参加者数」

- ・グランドゴルフが（評価指標に）なぜ入らないのか。県のフェスティバルにも参加しており、市の補助金を申請しているのになぜ把握できないのか。

【生涯学習課】⇒評価に載せる内容としては、市の大会に出るものを実績に入れるとしている。今後の指標のあり方の検討事項としておく。

#### （2）今後の取り組みの希望

- ・全体的に（サービスの）対象者を広げて多くの方が利用できるようにしてほしい。
- ・事業を広報して知ってもらう。広報の仕方・周知の方法を検討してほしい。
- ・（サービスの利用者が）お客様になっている。（提供者側も）やりすぎてしまう時がある。支え合いが支えるだけになってしまっている。共助の取り組みを生活支援コーディネーターとしてはやっていきたい。地域によって違うので、その地域に合った方法ですすめていきたい。

#### 4. 次回（4回目）について

1月中旬から2月上旬に開催  
（内容）

- ・意見のとりまとめと提言をしていくために、まとめた内容を確認する。
- ・来年度以降の取り組みについて

#### 5. 次回以降の部会で協議が必要な事項

■ 医療機関送迎サービス事業について

⇒ 要支援1・2までの対象者拡大は可能か。

■ 住民参加の移動・外出支援サービスについて

⇒ 引き続き、研修会や先進地視察などを実施し、地域共助の醸成を図ること。

■ 評価指標に「グランドゴルフ参加者数」がなぜ入らないか。

⇒ 今後指標のあり方について検討する。

■ 高齢者の生活支援についての事業をもっと広く広報してほしい。

⇒ 市、社協等連携して広く広報していくことが必要。地域の特色も考慮しながら実施を検討する。

高齢期部会 開催日：R2.1.20（月）

令和元年度 第4回 香南市人生支援計画 高齢期 部会報告書

（令和元年度香南市人生支援計画の進捗状況（10月末実績）について ほか）

◇部会委員 ◎部会長 ○副部会長

|    | 役職 | 氏名     | 所属             | 出欠 |
|----|----|--------|----------------|----|
| 1  | ◎  | 小松 健一  | 香南市社会福祉協議会 会長  | 出  |
| 2  | ○  | 福井 清仁  | 民生児童委員会 代表     | 欠  |
| 3  | ◇  | 島崎 義幸  | 高齢者クラブ 代表      | 出  |
| 4  | ◇  | 大谷 修二  | 第1号被保険者代表      | 出  |
| 5  | ◇  | 矢野 由美子 | 第2号被保険者代表      | 出  |
| 6  | ◇  | 岡本 八重子 | サービス利用者家族代表    | 出  |
| 7  | ◇  | 福永 康夫  | 夜須町民生児童委員協議会   | 出  |
| 8  | ◇  | 安岡 喜久一 | 香我美町まちづくり評議会会長 | 欠  |
| 9  | ◇  | 近森 孝章  | シルバー人材センター     | 出  |
| 10 | ◇  | 濱崎 勲   | 香美人権擁護委員協議会    | 欠  |

◇事務局 ◎事務局長 ○副事務局長

|    | 役職 | 氏名    | 課名     | 出欠 |
|----|----|-------|--------|----|
| 1  | ◎  | 宮崎 結城 | 高齢者介護課 | 出  |
| 2  | ○  | 西内 淳  | 福祉事務所  | 出  |
| 3  | ◇  | 中城 由美 | 高齢者介護課 | 出  |
| 4  | ◇  | 坂本 充子 | 福祉事務所  | 欠  |
| 5  | ◇  | 寺内 潤  | 環境対策課  | 出  |
| 6  | ◇  | 国松 士晃 | 生涯学習課  | 出  |
| 7  | ◇  | 岩佐 和子 | 健康対策課  | 出  |
| 8  | ◇  | 田中 彰裕 | 人権課    | 出  |
| 9  | ◇  | 佐竹 青空 | 高齢者介護課 | 出  |
| 10 | 総括 | 久武 正和 | 地域支援課  | 出  |

☆高齢期部会の開催内容

◎ 開会

◎ 議事内容

1. 高齢期部会報告書と数値目標・KPI評価書の報告
2. 来年度からの新規・拡充事業についての検討結果の報告
3. 人生支援計画（H27～H30）のまとめ
4. 来年度の高齢期部会のテーマについて
5. その他

◎ 閉会

## 1. 高齢期部会報告と数値目標・KPI評価書の報告

### ■ボランティア参加者数

- 他の自治体ではポイントを単年ではなく2年間繰り越しているという事例もあるので検討してほしい。そうするともっと利用が増えるのではないか。

【高齢者介護課】⇒ポイントの上限に届く方も多い。ポイントに応じて利用（香南市ギフトカタログの商品と交換）できるため、現行の制度の周知を図っていく。

### ■特定健診受診率

- 健診は75歳以上も受けられるが、指標では65～74歳となっている。運動習慣は40～74歳だが、特定健診受診率の評価との差はあるのか。

【健康対策課】⇒75歳以上は「健康診査」ということで区分が異なるため「特定健診」としては74歳までで集計している。運動習慣は問診項目から把握している。

### ■シルバー人材センター登録者数

- シルバー人材センターの人手はどうか。仕事内容はどのようなものがあるか。

【近森委員】⇒入会者の就業率は高い。立ち上げた初期の段階で入っている人が多いが、高齢化でやめる人も多くなっている。定職につきたいという希望で来る人も多い。（シルバー人材センターとしては）就業時間等の取り決めもあるので、本当に金銭的に困っている人は他を探してもらうことになる。仕事内容については、発注者など人の目が気になる方もいるが、基本的には請負契約。時間給ではないが、会員本人や発注者でそこを理解できていない方もいる。仕事に時間を要しても問われない。時間がかかっても報酬は変わらない。体力にあった仕事をするのが目的である。

## 2. 来年度からの新規・拡充事業についての検討結果の報告

### 【事務局】⇒検討結果報告

- 移動支援の方法として、セニアカーは介護保険では給付対象とはしていないことからサービス拡大についての協議をしたが、安全性の確認等のことから来年度は見送ることとした。今後もニーズがあると思われる品目については拡大を検討していく。
- 移動支援事業は来年度地域支援事業として住民互助を目的に生活支援体制整備事業の中で進めていく。旧町ごとの協議体で検討していく。
- 市営バスの活用について、お試し券の配布を行う。65歳の年齢到達で介護保険者証を郵送するタイミングで送るように考えている。バスの乗り方については、成年熟年期部会でも高齢期への備えとして市民自らの利用が増えるような施策は必要との意見があった。元気なうちに市営バスを経験してもらえよう取り組んでいく。

### 【委員】

- 市営バスを見る度にあまり人が乗っていないように思う。車輛を小さくする、運賃を無料にするなどの検討はどうか。

【地域支援課】⇒利用実態に応じて市営バスは小型化（ハイエース）している路線もある。利用者、運転手などにヒアリングも行いながら次年度のダイヤ等改正に向けて動いており、市営バス検討委員会では、無料や定額等の様々な意見の中で検討をしている。

- ・セニアカーの件など福祉事業としてみると、介護度等の制約が出る。移動支援として切り離して考えないとここから先進まなくなる。市営バス検討会では、バスの利用者は70%が高齢者で、しかも目的は買い物や通院という実態がある。制度としてはこのような形でせざるを得ないと思うが、介護度がついていなくても病院へは行っている。利用しているのは高齢者で、この状況をみて考えないといけない。

【ファシリテーター】

- ・交通機関の使い方について考える時に、今あるものの延長で考えているが、逆にこういう社会があったら高齢者も移動しやすいと考えてみてはどうか。一度単なる理想として考えてみるといい案が出ることもあるのではないかな。

### 3. 人生支援計画（H27～H30）のまとめ

【ファシリテーター】

KPIについて、その数値がどのように決まっているのか、何かエビデンスがあるのか。PDCAをまわすということは、何が足りなくて洗い出しをしているとか基準がはっきりしていないと、次の改善プランにはつながらないのではないかな。

【地域支援課】⇒市の課題を拾い出し、それに関連する事業を抽出している。事業はすでに個別計画で指標を立てているところがありそれを入れている。設定根拠の欄に〇〇計画と載せている。上位計画である総合戦略等を見直しており、それらの計画と合わせてR2～R6年度で新しく目標設定をしていく。

### 4. 来年度の高齢期部会のテーマについて

- ・ボランティア保険の関係、支援上で車の事故に対する保証はどうなっているのか。移動支援の中で課題としてあげてほしい。
- ・高齢者学級も行く手段がないと参加できない。
- ・市の研修バスの利用制限が多すぎる。他の地域によっては無料で乗れるところも多い。便乗して行く人もいるが、事故が怖い。スポーツ・文化の中でバスの運用についても検討してもらいたい。
- ・弱者に重点をおいた対策を検討してきた。高齢者であっても文化・生きがい・スポーツなど自分の生活の質を高める、そちらの方に関わる人も多いので、そこを支援していけば結果的に元気で長生きできるということになるのではないかな。今まで議論されていないので、もっと活動しやすくするにはどのようにしたらいいかも含めて考えてはどうか。日常的生活支援と活動としての生活支援を含めて考えていけばと思う。
- ・文化・スポーツ・生きがい・社会参加・市研修バス運用も含めた移動支援を考える、一般の生活支援にかかる移動手段、地域の助け合いとして移動手段も含める。ボランティア保険のことも出てくると思う。

【事務局】⇒住民主体の移動支援研修は県下に広がっている。視察については、詳細は決まっていなかったが地域の生活支援に関わっている人の参加を想定している。

## 【ファシリテーター】

- ・（研修バスの利用制限について）高齢になっても元気でトライできるということをそもそもとして考えると、研修もそのひとつとして、研修目的以外の場所への立ち寄りなどが含まれてもいいのではないかとこの考え方もある。そういうことが香南市としてのビジョンとなってくるのではないかと。全体的なことを考えてどうなのかということも行政としてぜひ考えながらやっていただければと思う。

### 今後の進め方のアドバイス

- ・そもそも何のためにどういう世界を作りたいかということ念頭に置きながら作っていく。香南市をこういうまちにしたいということがみんなの頭の中で描かれた中で少しずつそこに向かって進んでいく、そういうまちづくり・人づくりができればいいと思う。実現しなければならないこととも照らし合わせながら次回1回目に皆さんでこんな香南市にしたいというのを出してそこを外さずにスタートをすれば共通の意見や行動の仕方が出るのではないだろうか。

## 5. その他

### ■高齢者の特殊詐欺被害について

- ・高齢者への特殊詐欺の被害が多くなっている。シルバー人材センターでも研修をしている。ただ、被害にあうのは研修に参加しない人である。全体に向けて周知ができないだろうか。スマホを持っている高齢者も増えてきたが、スマホ関連の詐欺も増えている。
- ・高齢者の詐欺がどんなものがあるか知りたい。周囲の人に注意喚起ができる。
- ・民生委員への周知や広報でシリーズ化をすとか。地域支援課でもやればどうか。

【地域支援課】⇒幼年就学期部会から出た事業でライン公式アカウントを立ち上げている。

1月17日には詐欺への注意喚起の情報配信もあった。現在登録者数は約900人。登録者数の増加に向け取り組んでいく。

## 6. 次回（次年度1回目）について

令和2年4月下旬から5月上旬（第1回策定委員会前に実施）

## 7. 次回以降の部会で協議が必要な事項

### ■ 移動支援について

⇒引き続き、住民参加の移動・外出支援サービスについて研修会や先進地視察などを実施し、地域共助の醸成を図っていくとともに、市研修バスの在り方についても検討する。

### ■ 高齢者の生活支援についての事業をもっと広く広報してほしい。

⇒市、社協等連携して広く広報していくことが必要。地域の特色も考慮しながら実施を検討する。

### ■ 次年度のテーマも含め、こんな香南市にしたいという思いの共有。

⇒それを踏まえた上で、それぞれの課題に対し改めて協議していく。